

NO. 44

May 2007

CIEC Newsletter

お知らせ

<2007PC カンファレンス>

テーマ：壁を越える ICT 教育 一目が輝く新しい学びへー

開催日時：2007年8月2日(木)～8月4日(土)

開催場所：北海道大学

全体会・講演会

講演題目：参加型情報化社会で Wisdom Of Crowds は構築できるか

日 時：8月2日(木) 10:00～12:00

開催場所：学術交流会館 2階講堂

講 演 者：森 健氏 ジャーナリスト

参加申込受付開始 5月25日(金)から

最新情報は <http://www.ciec.or.jp/event/2007/>

<CIEC 第 68 回研究会開催案内>

テーマ：実践研究における定量的および定性的評価法について

— 学生・教員を対象にした意識調査のデータを利用した分析について —

開催日時：2007年6月24日(日)

開催場所：同志社大学新町キャンパス 溪水館（けいすいかん）1F 会議室

http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_campus.html

CONTENTS

<CIEC 研究会報告>	
・第 67 回研究会報告	2
<2007PC カンファレンス>	
・ご案内	4
<CIEC からのお知らせ>	
・CIEC 第 68 回研究会開催案内	5
・献本紹介	
・会員名簿変更手続き	

CIEC 会員状況

<個人会員 842 名>

教員 624、大学職員 15、

院生 49、学生 2、

生協職員 84、企業 25、

研究員 6、その他 37

<団体会員 87 団体>

企業 25、生協 57、

大学 2、高校 1、

法人 2

CIEC ニューズレター

2007年5月31日

発行：CIEC (コンピュータ利用教育協議会)

編集：CIEC 運営委員会

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協会館

TEL 03-5307-1195 FAX 03-5307-1196

e-mail jim@ciec.or.jp URL <http://www.ciec.or.jp/>

CIEC 研究会報告

《CIEC 第 67 回研究会報告》

(敬称略)

テーマ : e-learning システムの開発と教育実践

日時 : 2007 年 3 月 31 日 (土) 10 時 00 分～16 時 30 分

場所 : 大学生協会館 201-203 会議室

司会 : 上村隆一 (北九州市立大学)、野澤和典 (立命館大学)

講師 : 宮岸尉子 (アドビシステムズ社認定エキスパート)

参加人数 : 44 名

(午前・午後の延べ人数、講師および研究発表者を含む)

CIEC 10 周年記念事業の一環として、3 月 30 日 (金) に開催された記念シンポジウムの後を受け、3 月 31 日 (土) に大学生協会館を会場として、第 67 回研究会「e-learning システムの開発と教育実践」が開催された。全国各地から参加した 27 名を対象に、午前中のワークショップは、アドビシステムズ社認定エキスパートの宮岸尉子氏より Acrobat 8 Professional の最新機能が紹介された。参加者の約 1/4 ほどが事前にソフトウェアのインストールをしてこなかったこともあり、アシスタント 1 名が机間巡回しながら、隨時手助けをし、プログラムのインストールとサンプル・データのコピーをした後で実際のワークショップが開始された。

前半はチュートリアルのスタイルで、まず始めに Acrobat とは何かという観点から基本的な機能および新規機能をデモンストレーションしながら概説した。Microsoft Office との相性がさらに強化されることを強調しながら、Word を使った例を示し、PDF Maker を使い、変換過程を実践し説明した。次に、複数のファイルを結合して、単一の PDF ファイルを作成したり、PDF ファイルから他のファイル形式に書き出したりする過程を説明した。サンプルとして提供されたデータ・ファイルが参加者全員にコピーされた後、レビューと注釈の機能について、サンプル・ファイルに様々な変更を加えながら、それらの主たる特徴を実際に参加者たちと一つひとつ確認しながら説明した。さらに、セキュリティ機能について、署名スタンプと電子署名の違いを力説しながら、その利用方法を概説した。

ワークショップ後半では、実際にフォームの作成方法について、サンプル・ファイルを利用して、参加者に分かりやすくデモンストレーションをしながらアンケート作成・変更などを実践し、注意すべき点も促しながら丁寧に説明した。そして、最後にムービー・クリップを取り込んで、PDF 化する方法も説明し、教育現場で有効な多機能な利用方法を示してくれた。時間の関係で、Web 会議利用などを含め、すべての機能をカバーした訳ではなかったが、Acrobat 7 Professional/Standard と Acrobat 8 Professional/Standard の違いを踏まえながら、使用頻度の高い基本的な機能を中心に、集中的に研修できたことは、大変有意義であった。



昼食休憩後は、会場のレイアウトを変更し、各 3 つのプロジェクトとスクリーンを壁側に並べ、2 セッションに分けたポスター発表へ移行した。当初の計画では、各セッション時間内に自由訪問スタイルによるポスター発表の予定であったが、参加者からの要望により、その予定を急遽変更し、一人 20 分を基本としたプレゼンテーションと質疑応答のスタイルに変えた。前半セッションでは 3 つ、後半セッションでも 3 つの発表があった。各発表は熱のこもったものばかりで、その後活発な質疑応答が行われた。前半セッションの最初は、愛媛女子短期大学 (現東海大学) の森田直樹氏が「キー操作可視化システム」の題で、コンピュータ操作演習において、学習者に講師が行ったキー操作を可視化し提供することで、教育効果の向上を目指すための Visual C によるプログラムの紹介であった。



サンプルは <http://pubweb.cc.u-tokai.ac.jp/pubmorita/> を参照されたい。2つ目は早稲田大学の原田康也氏が「大学英語学習者のプロファイルと発話データの収集」の題で、早稲田大学法学部1年生の英語による自己表現力と対人折衝力の向上を目指す実践授業での発話データの収集について、データ収集風景を理解できる録画ビデオで紹介しながら報告した。参考資料として、原田ほか (2007). 「学習者プロファイルに基づく学習者音声コーパス構築を目指して」情報処理学会研究報告 2007-CE-88 (24), 19-176 を参照されたい。

3つ目は、朝日大学大学院生の藤沢大氏が「学校教育におけるWebページの蓄積、オンデマンド利用に関する著作権情報を管理するシステム」の題で、既存の著作権管理での問題点を指摘し、学校教育現場で合法的な情報蓄積をして、有効活用する著作権情報管理システムの提案をした。



後半セッションの最初は、武蔵工業大学の吉田邦子氏が「環境英語を学ぶeラーニング教材-環境e-lan (elan-e)」の題で、e ラーニング教材開発プロジェクトで作成された Reading と Listening からなるコースウェア (<http://www.yc.musashi-tech.ac.jp/~elan-e/>) について紹介された。2つ目は、大阪教育大学大学院2006年度修了生の鍛治大佑氏が「コンピュータ教材 CET (Cyber English Teacher)とのチーム・ティーチング形式による小学校英語活動に関する実証研究」の題で、小学校5年生を対象として楽しく英語が学べることを主眼とした補助教材として開発したマルチメディア教材の紹介をした。そして最後に立命館大学大学院2006年度修了生の小川恵子氏がFlashを使って開発した教材の紹介を指導教員である筆者が「英語自主学習のための中学生向けマルチメディア教材 (Virtual Homestay Program) の開発」の題のもと代行発表し、その理論的背景とコースウェアの概要を紹介した。開発された教材オンライン・バージョン (<http://www.tell.is.ritsumei.ac.jp/kew/>) は公開されており、誰でも利用できる。



発表者5名やCIEC関係者なども含め、のべ総数44名が参加し、研究会スタイルとしてはややユニークなワークショップとポスター発表から成る研究会であったが、盛会であった。

(文責:野澤和典)

2007 PC Conference

〈ご案内〉

(敬称略)

開催概要

- ・開催日時：2007年8月2日(木)～4日(土)
- ・開催場所：北海道大学 学術交流会館
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
- ・開催テーマ：壁を越えるICT教育一目が輝く新しい学びへー
- ・主 催：CIEC(コンピュータ利用教育協議会)
全国大学生活協同組合連合会
- ・後 援：北海道大学、文部科学省、北海道教育委員会、
札幌市教育委員会、NHK札幌放送局、
北海道文化放送、北海道新聞社、日本教育新聞社
- ・参 加 費：学生・院生1,500円(当日2,500円)
一般5,000円(当日6,000円)
※CD版論文集付き
【無料】講演会、シンポジウム、ITフェアなど
【有料】分科会、ポスターセッション、
イブニングトーク、レセプション
※レセプション、イブニングトークについては別途費用がかかります。

プレカンファレンス

- ・実施日時：8月1日(水) 13:30～16:30
- ・開催場所：人文・社会科学総合教育研究棟

【企画1】

「Faculty Development・試験解答の分析による授業改善へのご提案」

【企画2】

「Apple最新情報 & 簡単Podcasting」

全体会

- ・実施日時：8月2日(木) 10:00～10:20
- ・開催場所：学術交流会館 2階講堂

講演会

- ・実施日時：8月2日(木) 10:20～12:00
- ・開催場所：学術交流会館 2階講堂
- ・テーマ
「参加型情報化社会でWisdom Of Crowdsは構築できるか」
森 健(ジャーナリスト)

BlogやSNSなどで発信性が高まった現在、Webは誰もが参加するメディアになった。検索エンジンでは、入力ひとつであらゆる情報を発見できる。こうした動向を指して「Wisdom Of Crowds(群衆の収知)」と呼ぶ向きもある。専門家による知ではなく、無数のユーザーたちによる情報で構成された知。その代表例とされる参加型百科事典サイト「Wikipedia」は、18世紀から続く百科事典「Britanica」の項目数をはるかに上回る。自由に提供された情報が公共圏で共有されるプロジェクトとして、Wikipediaは成功の一つだろう。

だが、すべてがよい結果を生み出しているわけでもない。豊富な情報が手軽に入手・発信できる状況は、弊害も生み出しつつある。教育の現場では、課題レポートで内容と参照文献が多数重複するコピー&ペースト問題などが後を絶たず、学生・生徒の間では個人名をあげて誹謗中傷する「学校裏サイト」などが流行する。また、Wikipediaでは恣意的な誤記

が書き込まれることもある。そして、プロゴスフィアやSNSでは、社会的な話題に関しては、異なる立場の集団は互いの意見に耳を傾けようとしない趨勢がある。つまり、現在のWebを取り巻く概況は「群衆の収知」の途上ではあれ、ほど遠い状況である。

Webは私空間でもあると同時に「公共圏」でもある。だが、現状では公共圏の意識はまだ広く共有されていない部分が多く散見される。

すでに公私ともに不可欠のインフラとして機能しているWebで、今後群衆の収知は構築できるのか。また、公共圏はどのように育んでいくべきなのか。そして、その鍵はどこにあるのか。

本講演では、事例や統計とともに新しい時代の情報のあり方を考察する。

初めて参加された皆様へ

- ・実施日時：8月2日(木) 12:00～13:00
- ・開催場所：学術交流会館 第1会議室

はじめてPC Conferenceに参加された皆さん、CIECにいろいろと提案(注文)をしてみたいと思っているみなさん、是非、お集まりください。CIECの副会長や事務局長が、みなさんCIECの紹介をさせていただくとともに、みなさんからのCIECへの疑問、注文などにお答えします。

シンポジウム1

- ・実施日時：8月2日(木) 13:00～15:30
- ・開催場所：学術交流会館 2階講堂
- ・テーマ
「新しいネットワーク空間 -その課題と未来-」

- ・パネリスト 宮崎 豊久(財団法人インターネット協会
シニアアナリスト/インターネット博物館館長)
- 田代 光輝(ニフティ株式会社)
- 辰巳 丈夫(東京農工大学 総合情報メディアセンター)
- 向後 千春(早稲田大学 人間科学学術院)

- ・指定発言者 森 健(ジャーナリスト)
- 岡部 成玄(北海道大学情報基盤センター)
- 高瀬 敏樹(北海道札幌旭丘高等学校)

シンポジウム2

(小中高部会・大学生協職員部会・北大生協PCMasters共同企画)

- ・実施日時：8月3日(金) 15:00～18:00
- ・開催場所：学術交流会館 2階講堂(310)
- ・テーマ：「教える側と学ぶ側の壁」
- ・タイムテーブル

15:00-15:05	このシンポジウム開催の趣旨
15:05-15:35	(プレカンファレンス)座談会の様子
15:35-16:05	教科「情報」履修状況調査報告
16:05-16:50	パネルディスカッション (それぞれの立場から), 学生, 高等学校教諭, 大学教員
16:50-17:05	休憩, 意見用紙回収
17:05-18:00	パネルディスカッション (続き, フロアを含めて)

IT フェア

- ・開催日時：8月2日(木) 15:50～18:30
8月3日(金) 10:00～18:00

・開催場所：生協会館3階

恒例の企画 IT (Information Technology) フェアには、毎年多くのコンピュータや教育関連企業の方々にご出展いただいております。最新情報が得られ、また教育・研究素材が収集できます。実際に機器やソフトを試すことができます。

イブニングトーク

- ・実施日時：8月2日(木) 18:15～20:00

・開催場所：学術交流会館

イブニングトークは参加者のみなさん自身で作る企画です。テーマごとに分かれてお弁当を食べながらざっくりと語り合います。みんなの思いを伝え合い、実際の授業や活動に生かしていきませんか。企画を立てたい方は参加申し込み後に、テーマと趣旨を事務局に提出してください。興味あるテーマにご参加ください。

最新情報はこちら

<http://www.ciec.or.jp/event/2007/>

CIEC からのお知らせ

《CIEC第68回研究会開催案内》

テーマ

実践研究における定量的および定性的評価法について
—学生・教員を対象にした意識調査のデータを利用した
分析について—

■開催日 2007年6月24日(日) 13:00～17:00

■会場 同志社大学新町キャンパス

渓水館（けいすいかん） 1F 会議室

http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_campus.html

■講師 宿久 洋 同志社大学文化情報学部

■開催趣旨

CIEC 第 66 回研究会において、実践研究における定量的評価の手法に関するワークショップを開催しました。先回に引き続き、教育現場における学校評価や授業評価などに対応するため、実践における多様かつ複雑なデータを定量的および定性的に評価する手法について、報告と意見交換を実施します。特に、意識調査に関する報告については、全国の大学1年生・教員を対象にした意識調査のデータを使用し、小中高部会が、今後、実施するアンケート分析や学習会等の活動と関連させた内容とします。

■プログラム

○13:00～15:00

「大学意識調査データを用いた大学評価・講義評価の分析

—カテゴリカルデータおよび自由記述データの分析—」

宿久 洋 同志社大学文化情報学部

○15:00～15:20 休憩

○15:20～16:20

「授業実践に関する定量的評価の手法について」

○16:30～ 定量的評価手法全般に関する質疑応答

○17:00 終了

■参加費 CIEC会員は無料、その他の方は500円
(どなたでもご参加いただけます)

■お申込み CIEC 事務局 e-mail : sanka@ciec.or.jp
TEL/FAX 03-5307-1195／03-5307-1196
URL: <http://www.ciec.or.jp/>

<献本紹介>

2007年3月12日

『情報科教育の方法と技術』
西之園晴夫 岡本敏雄 編著

2007年1月29日

『メディア・リテラシー教育 学びと現代文化』
デビッド・バッキンガム 鈴木みどり監訳 編著

<会員名簿変更手続き>

ご所属と送付先等に変更がございましたら事務局までお知らせください。 (jim@ciec.or.jp)